

公共交通確保対策についてです。

持続可能で利便性の高い地域公共交通の実現に向け、町内コミュニティーバス六郷循環線をAIオンデマンド交通に転換する、山梨県の「新たなモビリティサービス導入促進モデル事業」の実証実験は、先月1日にシステム開発業者を決定し、現在システムを開発中であります。来月には利用に関する地区説明会を順次開催し、11月1日から2月24日まで試験運行に入る予定であります。

「AIオンデマンドバス」とは、乗りたい時に呼べる乗合バスサービスで、利用者が出発地・目的地を申し込むと、近くの乗り場が指定されます。運行ルートは乗客の目的地などに応じて、人工知能(AI)が最適なルートを選択するものです。

AIやスマートフォンなどのITの活用と電話予約を併用し、利便性の良い公共交通として、買い物支援、外出支援等のサービス向上を目指していきます。

先の峡南地域ネクスト共創会議においても公共交通網整備、また、JR身延線駅への二次交通手段としてeバイクによるレンタサイクル整備構想も議論されていて積極的に推進していきたいと考えています。

農業の振興についてであります。

農業は本町の重要な産業の一つであり、大切に守っていかねばならないものと認識しております。本町では、とうもろこしの甘々娘、大塚にんじん、キウイフルーツのレインボーレッドなどの特産物をはじめ、桃、ブドウ等の果樹など、多種にわたる農産物を農家の皆さまのご努力により生産していただいております。

しかしながら、農業を取り巻く環境にもさまざまな課題があることも事実です。就農者の高齢化などにより発生する、後継者の問題。地域の農業をけん引する担い手不足の問題。そこから波及する遊休農地、荒廃農地の増加の問題。野生動物による鳥獣害の問題など、農業を守るために取り組まなければならない課題がございます。このような課題に対しましては、地元農家様はもちろん、山梨県農政部、峡南農務事務所、JA山梨みらい等の関係する皆さまからの情報収集、ご指導、ご協力をいただきながら、連携を密にし、有効な補助事業等の活用も検討し、対応してまいります。また、本町の農業にふさわしい先進的な農業技術やスマート農業の導入などについても研究しながら生産性の高い高効率、高収益農業の振興に努めてまいります。

一方、県外の優良企業が、山梨県内への農林業進出計画について、山梨県農政部等の仲介による話し合いを具体的に進めている事例もございますので、今後も、農業の振興に向けたさまざまな取り組みを行ってまいります。

さらに、「のっぴい魅力化プロジェクト」と称し、都市部の学生が本町に滞在し地域の方々との交流やフィールドワークを通じて、まちの魅力や課題を探り市川三郷町ブランドを考えるイベントが、今月9日から11日実施されます。

「市川三郷町都市計画マスタープラン」の見直しについてです。

まちづくり分野の総合的な指針を示す「市川三郷町都市計画マスタープラン」の見直しを今年度から2箇年をかけて取り組むこととしています。

現在、当初計画で取り組んできた「土地利用・交通・観光・生活環境」に関連した施策の検証作業や課題の整理を進めているところであり、今後、役場内検討会において検討を進めた上で、今年度中には外部有識者による策定委員会を設置し、まちづくりの将来像と目標の見直しを進めてまいります。

人口減少や高齢化が急速に進む中で、リニア中央新幹線の開業や中部横断自動車道全線開通など本町を取り巻く社会環境も大きく変化しておりますが、持続可能なまちづくりの構築を目指し、高齢者や子育て世代をは

じめ、すべての町民が安心して暮らせる「住み心地の良い町日本一」の実現に向け、取り組んでまいります。

次に本町の特色ある教育の推進についてです。

子どもたちが本町で過ごす小中学校9年間で、町の歴史や産業を学び、地域の人たちと交流し、職場体験や進路学習を行う「ふるさとキャリア教育（みさと学）」について、8月の広報やHPで紹介いたしました。私の選挙公約では「地域学」と称しておりましたが、ふるさとを愛する気持ちを育てること、様々な体験活動を通して自分らしい生き方を見つけることを目的とし、子どもたちが将来市川三郷町や山梨県、日本で活躍できる人財に育つことを期待し、取り組んでおります。

今年度も、既に研究委員会を2回開催し、活動計画のブラッシュアップや、中学校と山梨県立青洲高等学校との連携など具体的な取り組みを進めております。

また、学校・地域・町が連携・協働し、「地域の子どもは地域で育てる」ことの基盤となる「地域学校協働本部」が「市川南小中学校」と「市川小・市川東小・市川中学校」でスタートしています。令和5年度には、すべての学校で導入していく予定です。

国際交流事業の推進についてです。

本町と姉妹都市であるマスカティーン市とは交互に訪問団を派遣し、交流を深めてまいりましたが、ここ3年間は新型コロナウイルス感染拡大のため交流が中止されています。

国際交流協会では、このような状況の中でも交流を継続するため昨年度と今年度、SNSを活用し、世界平和の推進に寄与する目的で、双方の地で平和祈念のベルを鳴らし、親睦を図りました。今年度は8月6日に開催し、本町からは私と渡井教育長含む16名、マスカティーン市15名、ニューヨーク市1名が参加し、市川中学校と青洲高校の生徒が英語で、マスカティーン市民が日本語でスピーチを行い、遠く離れた地でも相互に交流を深め、世界平和を祈念することが出来ました。